

神の選びの計画

ローマの信徒への手紙九章6〜18節

従って、これは、人の意志や努力ではなく、神の憐れみによるのです。(16)

神に特別に選ばれながらも、神に背き続けたイスラエルの歴史を振り返るとき、パウロは「イスラエルは神に捨てられたのだろうか」と問わざるをえませんでした。心にわきあがる問いに対して、パウロは自ら反論します。神の約束が無効になつたわけではない、と。そもそも神の選びの計画は、人間の行いの善し悪しによつて決定されるものではありませんでした。神はアブラハムの二人の子のうち、イシマエルではなくイサクを選び、イサクに生まれた双子のうち、兄エサウではなく、弟ヤコブを選びました。選びは全く神の主権の内になされたのです。それはただ神の憐れみによります。捨てられるしかなかった者たちを、深い憐れみによつて選び出してくださいましたのです。ですから、神に選ばれた者たちは自らを誇ることなく、「こんな私が選ばれた」と、驚きと感謝をもつて生きるのです。